

# さかどの至宝、ずらり!



普段は展示していない、坂戸市指定文化財「入西石塚古墳出土遺物一式」をゆっくりと鑑賞する来場者の皆さん。

【特集記事】埋蔵文化財出土品展へようこそ

今回は、地域の文化財の魅力を再発見する「坂戸市埋蔵文化財出土品展」の取り組みについてご紹介します。出土品展は、近年の発掘調査の成果を紹介する年に一度の展示企画で、毎年多くの方からご好評をいただいています。

### 実物の魅力を間近で

歴史民俗資料館では、発掘調査成果をまとめた冊子『埋文さかど年報』を毎年刊行しています。出土品展では、年報で紹介した遺跡から出土した本物の土器などを展示し、あわせてその後の研究成果なども紹介しています。

最新の研究成果をお届けするため、近年は特定の遺跡や時代をテーマにした展示にも挑戦しています。今年の夏に開催した第二六回出土品展では「大古墳展」と題して、長年にわたって盛んに発掘調査が行われている入西・大家地域の古墳時代の様子について紹介しました。

展示の目玉となった坂戸市指定文化財「入西石塚古墳出土遺物一式」は、サビや割れによる劣化を少しでも防ぐため、普段は資料館内の保管庫で厳重に保管されています。常設で展示することが難しい貴重



な文化財を、会場ですぐりとご覧いただけるのも、出土品展ならではの楽しみです。年報だけでは伝えきれない、実物の文化財が持つ魅力や学術的な価値をアピールするために、学芸員全員で一丸となつて展示を作り上げています。

### より多くの人に届きたい

出土品展の会期は、例年一週間程度となつていますが、「開催期間をもっと長くしてほしい」というご意見もたくさん頂いています。会場確保などの課題から現状では会期を延長することは難しいものの、より多くの方に展示をご覧いただけるよう、現在は開催時期や広報活動といった点から、工夫を重ねています。

次の出土品展の準備は、もうすでに始まっています。来年度は、坂戸・勝呂・三芳野地区の古墳文化にせまるテーマ展示「大古墳展2」を予定しています。続報にご期待下さい！

展示を見逃した...  
そんな方に朗報です!

坂戸市HPで  
解説資料を公開中



ダウンロードは  
こちらから→

出土品展・企画展示などの展示解説資料をPDF版でご覧いただけます

# 令和5年度 展示情報

予告

## 下半期企画展示「村の鍛冶屋」

資料館に寄贈された鍛冶道具を一挙公開！入西の小山地区で営業していた鍛冶屋の仕事道具のほか、江戸時代〜戦前の絵図や、近隣の発掘調査成果から、少し昔の地域の様子について紹介します。

資料館一階ホールで、令和六年一月五日（月）から四月十九日（金）までを予定しています。※入場無料

## 展示中 出張展示「長岡遺跡にもたらされた土器

入西地域交流センターで、長岡遺跡（長岡地区）の発掘調査成果を紹介する出張展示を開催しています。古代集落から出土した赤い土器「土師器」と、灰色の土器「須恵器」について、

特徴や作り方の違いをやさしく解説しています。

展示は令和六年九月九日（月）までを予定しています。※入場無料



# 連載 学芸員のイチオシ！



入西石塚古墳出土 長頸鎌

今回ご紹介するのは入西石塚古墳出土の鉄鎌です。令和五年度の埋蔵文化財出土品展にも展示された遺物です。矢じり（鎌）は材料を変え、狩猟や戦争の道具として、旧石器時代から現代にいたるまで使われています。主な進化の方向として、黒耀石などの硬質な石を打ち欠いて作った石鎌から、青銅を鋳造して作った銅鎌、そして鉄を鍛造して作った鉄鎌という流れがあります。

入西石塚古墳の作られた古墳時代中期後葉の鉄鎌は、細長い部分を持った長頸鎌や短頸鎌と、大型で扁平な平根系鉄鎌と呼ばれる鎌に大別できます。そして長頸鎌を多数と平根系鉄鎌を少数副葬する組合せが全国的に主流となっていました。

入西石塚古墳出土の鉄鎌でもこの組み合わせが見られ、坂戸市周辺も全国的な潮流のなかにあったと分かります。（山下）



入西石塚古墳出土 平根系鉄鎌

# 連載 まちなか文化財スナップ

今回は、勝呂消防組第一部の火見櫓跡（石井地区）をご紹介します。

明治時代に近代的な消防組織が整備されて以降、火災をいち早く察知し地域に危険を知らせるための鉄製火見櫓が各地で多く建設されました。

勝呂駐在所の隣に建っていた勝呂消防組第一部の火見櫓もそのひとつで、かつての様子を撮影した古写真が残されています。



右が大正～昭和初期の火見櫓の様子。左は現在の同じ場所の様子。

三脚の櫓には六角形の見張り台がつき、手すりや屋根には鉄線をくるりと丸めた飾りが施されています。櫓の中に下がっている半鐘は、現在の防災無線のような

役割を果たし、出火・鎮火などによって合図が決まっていました。まちなかに高くそびえる火見櫓は地域のシンボルでもあり、競うようにして多彩なデザインの櫓が建設されました。資料館ではこのほかにも、坂戸の宿通り（仲町地区）や坂戸小学校の脇（薬師町地区）などに建っていた火見櫓の写真を所蔵しています。

長年まちを見守ってきた市内各所の火見櫓は、老朽化のため近年撤去が進んでいます。かつて坂戸市内には三〇基以上の火見櫓が存在していましたが、現在は森戸地区に一基が残るのみとなっています。今回紹介した火見櫓も平成二五年に撤去されていますが、記録された姿は消防活動に尽力した地域の人々の熱意と誇りをいまに伝えていきます。

**坂戸市立歴史民俗資料館だより**  
第6号

【発行】坂戸市立歴史民俗資料館  
令和5年11月30日  
〒350-0212  
埼玉県坂戸市石井 1800-6  
TEL 049-284-1052  
FAX 049-284-1128

【利用案内】  
入館無料・月曜日～金曜日 開館  
(祝日・年末年始のぞく)  
午前9時～午後4時